

○議長（武石善治） 次に、4番、佐藤真二君の発言を許します。4番、佐藤君。

○4番（佐藤真二） では最初に、私の質問として大地の芸術祭の総括について、ということについて質問いたします。

5番目でありますので、そろそろ村長も疲れてきておりますので、私の質問は簡単にお願ひして、答弁も簡単にしてお願ひします。

昨年の村の最大イベント、大地の芸術祭、天候にも恵まれ予想を上回り9千人以上の方が八木沢集落に訪れておりました。我が村のように人口が少なく、年々、人が減っていく村にとって、まずは最低でも交流人口を増やさなければなりません。それを更に定着型に変えていく。そのためには大変意義のあるイベントであったのではないかと思います。

しかし、村の宣伝という意味では大変よかったですのですが、問題もなかったわけではありません。予算の掛かり増し、県や芸術家の先生と村との連絡が不十分であり、村民、議会への周知が後手にまわり、関係者のみが盛り上がり、村民の全体の盛り上がりは今ひとつ感じられなかった点など、突き詰めますとまだまだ問題点はあります。問題点がありますが、今回はそういう問題点は別として、25年度につないでいくうえで、また、この開催したイベントに花を咲かせ、実をつけていくために3点ほど伺いたいと思います。

まず、最初に村長が考えるこの村として、どのような成果があったのでしょうか。

次に、KAMIKOANIプロジェクト秋田、今年も2千万円ほどの予算を盛り込んでいます。25年度は国庫補助金事業であります。24年度も国、県と上小阿仁村で2千万円ほどかかっています。24年度、25年度と多額の予算をつぎ込む予定です。また、さらに26年度には、国民文化祭もあります。そこで、今回の開催の結果を踏まえて、25年度以降の構想は、どのように考えているのか。また、村長は、このイベントに相当な予算をつぎ込み、そして力を入れております。このイベントを通して村の将来像を、どのように描いているのか。この3点、今後の構想、そしてどんな村にしたいのか、よろしくお願ひいたします。

○議長（武石善治） はい、村長。

（中田吉穂村長 登壇）

○村長（中田吉穂） 最後に、5番目に登場しました佐藤議員から、昨年の大地の芸術祭についてのご質問でございます。

村としての成果、それから今年度を踏まえて来年度以降の構想はと、そして3つ目として、このイベントを通して村の将来像という大きな柱を3つ、ご質問いただきました。昨年度、八木沢集落において大地の芸術祭の飛び地開催を行ったわけですがけれども、期間中は大変メディアの方に取り上げていただいて、

正直なところ、こんなにメディアの方が、このイベントを取り上げてくれるという思いもしておりませんでした。

上小阿仁村が自然に恵まれている、そういう中であって、自然に恵まれているよりも寂れているような、そういう八木沢という限界集落の中に人がなぜこんなにも来るのか、まずそこから自問自答が始まっております。

村の人方も、また議員の人方も、そしてまた、我々行政の仕掛け人としても、本当に人がなぜこのように来るのか。これが私にも不思議でならなかったわけです。つまり、我々が想像していること以外のことが起きていると。全国で200を超える自治体が、このアートによって地域を活性化しようと取り組んでいると聞いております。

つまり、今の社会が、こうした地域で芸術を、鑑賞したり、回って見たりするという、そういう状況にうまく乗ったのかなというふうな気もいたしております。この村として、では、これがお金を使ったわりにどういう成果があったのかと、こう問われるわけでございますけれども、お金の成果というのは、何を基準にするか。その基準というのがもの凄く私は難しいなと思っております。

つまり、周りから評価を得たものは、お金の評価になるのか、周りでは、上小阿仁村すごいなと、いろんなことをやっているなと、こう言われます。では中にはいつている人方はどうでしょうかと。いや何をやっているかさっぱりわからない。実態が、今佐藤議員がおっしゃったような、私はそういう実態であるのかなと、自分でもそう思っております。

ただ、上小阿仁村というのは、やはり、今までは秋田杉、山林の村だと、こう言われ続けてきました。資源が一杯あって、その資源が有効に活用される時代は、それでよかったですけれども、残念ながら今、杉の資源が有効活用されないで、山に残っているような状況であります。そういった中で、では何によって地域の人方を元気づけていくかと。やはり村にあるもの、村に来てくれる人を大事にしていく。そして村を応援したいという方が、美術工芸短大の芝山先生とか、そういう人方であったわけです。ですから、そういう応援をしてくれる人方を大事にしながら、元気を出していければ、私は村のためになるのでないのかなと思っております。ですから、お金の換算するということになれば、大変難しい面がございます。でも私は、これをやらなければと考えた時に、この1年間、では私は何をやってきたのかと、議会は何をやってきたのか。村民は1年間何をやってきたのか。それは必ず問われてくるのではないのかな。

結果は、すぐに出るわけではございません。でも、これをやることによって、そして今年度もまた廃校を使ったり、田んぼを、もしかすればすすきの野原に

そばの種を蒔いて一面のそば畑が出来るかもしれませんが、ひまわりが一面に咲くかもしれません。何もしないよりは動いた方が、私は絶対に価値が生まれると、そう思っております。

このイベントを通して、県へ行っても、上小阿仁村はすごいな、何かをいつもやっているなど言われます。私は、それが村づくりであると思っておりますし、そうした積み重ねが、いずれ上小阿仁村に人を呼び込む力にもなるのではないのかな。すぐに結果は出ません。そしてまた、空き家も沢山あります。では空き家一棟全部アートでやってみたらどうかと。また村の人方にも、我々の集落ひとつ皆でアートを作ってみようか、こういう気運が生まれてもらえればうれしいなど、そう思っております。

人に頼るだけでもだめですし、また、自分方だけでもできるものでもないし、これはそういう芸術的なセンスがなければ、なかなか難しいなど思っております。

今年は、沖田面の集落でも展示されますし、そしてまた、小沢田集落の方でも展示をするというふうな計画を持っております。もちろん八木沢集落、野外作品、室内作品というふうな形で進めようとしております。こういう中に便乗して地域でもワークショップがありますので、そういった中に人が来て一緒になって作品づくりをしてもらって、それが地域を盛り上げるひとつの力になるのでないかなと。十日町市が最初にやった時も、なにやっているのだと、集落の人方はほとんどそういう見方しかなかったというふうなことも聞いておりますし、昨年5回目になりましたけれども、5回目になって、私の集落、うちの集落というふうな形で呼び込んでもらえた。そういうお話も聞いております。ですから、この第2弾、上小阿仁プロジェクトですけれども、来年は国文祭がありますので、これにもまた、今年の頑張りで弾みをつけて、来年もやりたいし、それが終わればまた第2回上小阿仁プロジェクト、大地の芸術祭ができるわけですので、引き続き、そういった形で一生懸命頑張っていきたいなど。ただ、これも議会の皆様のご理解を得なければ進んでいくことがなかなか難しいというふうに思っておりますので、皆さんがどのようにお考えになっているのか、そういったご意見も伺いながら進めていきたいと思っております。

以上です。

○議長（武石善治） 4番、佐藤君。

○4番（佐藤真二） ご答弁、ありがとうございます。私がお願いしたかったのは、先ほど村長が言いましたように、お金かけて、その成果を出すという意味ではなくて、実際、これをもって簡単ではないでしょうが、このイベントをとおして、村長が考える村の将来像です。私はこうしたいのだと、さきほどの齊藤議員から言われましたけれども、農業に対してもどうしたいのだと、村は

こうしたいのだと、そういう答弁を、もしできましたら、大変難しい構想ではございます。村長が、やはり村長として、首長として村を引っ張っていくためには、そういうものがなければ、いくら国庫補助事業であろうと、議会でもむ時に大事な問題になります。そこのところをお願いします。

○議長（武石善治） はい、村長。

（中田吉穂村長 登壇）

○村長（中田吉穂） どういう村づくりをしたいのかということにつながっていくと思います。今、村の現状をこと細かく説明していけば、段々暗くなっていきますので、私は言いませんけれども、交流人口を増やすしかない。私はそう思っています。あるものを生かす。あるものを生かすということは、田んぼでも畑でも、林でも、あるものは何でも生かす可能性があるのです。空き家もそのとおりです。ですから、交流人口を増やして、そういったものを使用していく、そういう考え方に私は立っています。

ないものを、ここに持ってきてつくるよりも、あるものを生かしていくんだと、私が前に自分なりに、これは誰にも公表しておりませんが、再生という、自分が考えている文書があります。これを読めば、少しは伝わるのかなと思いますので。

これからの少子高齢化の時代、高齢者がもっとも安全、安心に暮らせる場所は、山村ではないかと思えます。おのおのが持っている歴史や文化、環境や風景などの生かし方があるはずで、山の住民が生業を確保しながら山を守り、田畑を守り、景観や機能を維持していく活動に、都会の住民にも入ってもらう仕組みをつくるのが出来ないかと。その地域には、その地域の生かし方があるはずで、山の暮らしの良いところは、村の畑で野菜をつくり、少しの田んぼで米をつくり、あとは山菜やキノコなど、自然の恵みを取って暮らしていける、若干の年金で悠々と暮らしている環境にあるわけです。

60を超えた世代の方でも、こういう環境で活動しようと思えば、20年間生活ができます。こうした人たちの力で、地域を支えていくことは十分可能ではないか。仕組みづくりと活動プランを整理すれば、希望する人はあるのではないかと考えています。

今までの過疎対策は、定住促進ということで、若者定住、企業誘致が目指されてきました。しかし、政治と経済が目まぐるしく変化する大きな流れの中で、企業も飲み込まれ、拠点が海外にシフトしてきています。生業を可能にする生活収入が見込めない村の現状に、若者定住が思うように施策にいたらなかったと思えます。本当に必要なのは、定住のみではなくてもよいのではないかと、この緑豊かな環境が守られ、田畑が荒れることなく、地域の祭りや機能が守られ、集落が維持され、ゆったりと暮らせるのが、田舎の良さではないのか。

そこで暮らす人、そこに来て交流、活動する人があってもいいわけです。この環境を楽しみたいと活動人口でもいいのではないか。人は短期、中期、長期でも、ここに泊まって活動に従事しながら生きがいを見つけられる仕組みをつくるのが可能ではないか。つまり、定住人口だけではなく、活動する人口を増やすことが、地域を守り、山村を守ることで都会を守ることにもつながっていくのではないのか。暇と時間がある人に、この村に来て、棚田の一枚もやってみませんか、山菜を直接とって食べてみませんか。大きな荷物を持ち込まなくても気軽に、気楽な気持ちで楽しんでいきませんか。若者定住だけにとられずに、お年寄りの世代が、次々と世代を継いでいく仕組みづくりが、これから必要とされると思います。

また、自分や親のふるさとでも帰ってきたいが、家も耕地もないという方のために、緩やか基礎条件作りを勧めていこうと考えています。山で暮らす条件を整備すること、まだまだやるのが山のようにあります。

これは昨年の正月に私が村を思いながら、自分なりに、村の再生という形で書いているものですが、初めて皆さんに紹介しました。ただ、こういう思いで村を動かしていきたいというのが、私の信念でありますので、どうかご理解願いたいと思います。

○議長（武石善治） 4番、佐藤君。

○4番（佐藤真二） ありがとうございます。私がしつこくこの将来像を確認したいのは、やはり先ほど北林議員も申しました。萩野議員も申しました。村長としても、今年で2年、今度折り返し点であります。やはり村民にも、我が村の村長は、このようにして村を引っ張っていく、その意思を、村民が皆で理解をして、そしてまた、今年行われる予定になっております上小阿仁プロジェクト、そして村民の皆さんが1人でも多く携わる、そして理解してもらえるためにも、村長の意思を確認したかったわけです。

1つ目の質問は、これで終わります。

○議長（武石善治） 4番、佐藤君。

○4番（佐藤真二） 次に豪雪対策についてです。前の議員の皆さんからほとんど出ておりますが、一応気をつかっていただきまして、私のために延していただきましたので、質問させていただきます。

年々増えきている雪について質問させていただきます。

今年もやっと春らしくなってきました。豪雪のわりには大きな災害も、事故もなく過ごせましたが、まず、最初に、年々増え続ける空き家の問題です。その空き家の中でも、今回取り上げたいのは、先ほど村長が言いました連絡の取れない32戸、この空き家の問題です。人の通る歩道、車も人も通るような道路に隣接している、また、隣りが隣接している連絡の取れない空き家、見るから

に危険だと思われるような屋根の上の雪、これに村では、どのような対処をしているのか。これが1つです。

次に、一般住宅の雪下ろし、排雪等について伺います。

年々建築業者の減少、また、屋根に上がれる職人さんの皆さんの高齢化によって雪下ろしのために村に登録していただく業者が減ってきていると聞きます。高齢化の進む我が村では、今までは何とか自分で下ろしたが、次からは他の人に頼もうとされているという声を聞きます。雪下ろしを依頼する人は年々増え、雪下ろしをしてくれる業者、職人さんは減っていきます。今年は、何とか春を向かいいれましたが、今後の対応策を考えておかなければならないと思います。どのように、村長はお考えですか。これが1点です。

次に道路の除雪です。上小阿仁村道、村の中の道路の除雪について質問します。

豪雪のため、道路の除雪の終了時間が遅くなっております。幸い事故も起きてはおりませんが、終了時間の目安などはあるのではないかと思います。今後このまま進めるのか、来年度からは何か対応策を考えているのかお聞かせください。

次に、今年の春にありました雨と雪融けによる洪水の対策です。自然災害は、いつどのような形で襲うかは予測がたちませんが、昨年、洪水がありましたから、また今年もあるというものではありませんが、万が一のため、村民の不安を解消するためにお伺いします。村としては、萩形ダム管理事務所と何か打ち合わせなどして対策などを考えているのでしょうか。

以上、よろしくお願ひします。

○議長（武石善治） はい、村長。

（中田吉穂村長 登壇）

○村長（中田吉穂） 雪の対策について、何度もくどくなりますが、質問にお答えしてまいりたいと思います。

道路に面し、歩行者などに危険を及ぼすと思われる空き家の雪対策についてですが、空き家の雪対策については大変苦慮いたしております。しかし、住民の安全のためには避けてはとおれないものと認識もいたしております。歩道、道路の通行に支障をきたす等危険な場合には、家主に連絡をして対応してもらいますが、中には、相続放棄により連絡のつけようのない空き家もございます。

隣近所で助け合いながら、空き家の雪下ろしをするとか、一番身近な自治体である集落のコミュニティーを活用して集落で対応していただくことが出来れば一番いいのではと考えてはおります。

次に雪下ろし等の依頼業者が減っているということですが、おっしゃるとおり依頼業者が少なく、雪下ろしについては心配をいたしております。さらに業

者さんの数も減少しており、工事等の関係で依頼されても雪下ろしをできないという状況もあります。

先ほど述べましたが、集落で対応していただければと思いますが、それと併せ、今後は、専門の雪下ろし隊の確保等、手段を講じていかなければならないと考えております。緊急時に備えて更なる検討をいたします。

次に、除雪関係についてですが、交通に支障をきたさないために、除雪車の一斉出動は午前2時としております。除雪車が来るのが遅い等の苦情はいただいており、ご迷惑をおかけしておりますこととお詫び申し上げます。

現在、直営と委託の除雪車両15台で作業を行っておりますが、公共事業の減少など、全国的に除雪機械の不足が問われております。村内に除雪作業に参入できる方がいて車両を増やすことができれば、時間短縮はできますが、建設業者が減っている状況から、これらも難しいのではと考えております。どうしても降雪状況に左右され、すぐにうまくいくとは思っておりませんが、試行で出発する集落を交互に替えている路線もあります。また、出発時間を早めてみるなどの対策もありますので、次年度に向けて検討してまいります。

次に、春先の融雪による洪水対策についてですが、昨年3月31日は避難勧告を出し住民の安全確保に努めましたが、萩形ダムとの連絡体制が不十分であったのではないかと反省点もありました。昨年のようにならないために、去る2月14日に事務レベルで、萩形ダム職員と住民福祉課、建設課職員と打ち合わせを行って、連絡体制を確認しております。

今後、融雪期に向けて、萩形ダムへの要望と併せて関係機関と連絡を密にして災害の防止と災害が起きた場合に備えてまいります。

雪の関係の基本的な考え方でございますけれども、民間所有の空き家等は、市町村の管理権限の及ばない財産であります。しかし、所有者相続等不明、所有者に積極的な管理の意思がない等適切な管理が行われない空き家等が存在し、生活環境悪化や安全な生活への支障が発生するケースがみられてきました。市町村としては、平時から所有者を特定し、その方に除排雪等を実施させる取り組みを行う必要があるというふうな、理想論でございますけれども、法律上は、個人財産であるということだけははっきりとしておりますので、それに手を加えるということになりますと、何かしらの法律、条例等が必要となりますので、そういった面を早急に整備しなければ、できないのではないのかなど。去年、長井議員はボランティアという表現を使いましたけれども、本来であれば上がることができない物件に上がりました。これは私の判断で上がりましたけれども、それに対して、もし苦情がきた場合は私が責任をとるという決意の元でやりましたけれども、誰からもそういう苦情はきませんでしたので、そんなに法律用語を硬く解釈しなくても、地域の安全のために雪下ろしをするということ

に対しては、緩やかな考えでいいのでないのかなと思っております。今日も小沢田の伊藤さんのところの雪下ろしを行っております。地域の安全のために、どうしても必要であると、集落でも出来ないという時は、やはり、あとは村の私の判断でやるしかないなど、こうしております。

以上です。

○議長（武石善治） 4番、佐藤君。

○4番（佐藤真二） ありがとうございます。その連絡のつかない、持ち主がわからない空き家というのは、村長が何度も話しているように大変法律的にも難しいとはわかっております。しかしながら、この前の25日に豪雪対策本部、その前に対策部でパトロールをしていると言いましたが、どうもそのパトロールをしている方々がどのようなパトロールをしているのかわからないのですが、やはり、そういうところは入念にチェックしてほしいと思います。危ないですよというテープは張ってはおりますが、何日も横になったり、雪の中に埋もれている。それで果たしてパトロールしているのでしょうか。

やはり、そういうところを村長が見るわけにはいきませんので、職員の皆さんにきちっと、事故が起きてからでは、やはり村のせいではありませんが、悲しい村民の事故になりますので、今後、来年の冬までに、村長が言いましたようにいろいろ大変でしょうが、そういうマニュアル化など考えまして、そして、雪下ろしの対策も、やはり、住民がどこに頼めばいいか。役場に頼めばいいと。業者に紹介されれば行けない。やはりそういう話がどんどん出てきております。

年々、高齢化になりますので、今年、これから冬まで期間がありますが、何分なぜ今申すかと言うと、その場しのぎで対応していると感じられるからです。今から村長が答弁したように、これから春になりますが、秋までかけてマニュアルをつくっていただいて、そしてこれはやりましょうと、そして先ほど話したように地域集落にもお願いするものはお願いするような、そういう政策も必要でないかと思っておりますので、ぜひそれは行ってください。

それと最後に雨と融雪ですが、昨年、村長が出しました6月の行政報告に、私は、これは絶対あってはならないと思うのは、ダム事務所から無調整放流をするという連絡がきたと、私はこれは絶対あってはならないと思います。何のためにダムがあるのか、何のためにあの上流のきれいな水を止めてダムを作っているのか。村民が我慢しているのか、それは災害を起こさないためにダムを作っているかと思っておりますので、あれだけきれいな水を止められても、過去にまだ一度も災害が起きておりません。万が一、どのような事態になるかは、誰も想像できません。私は、これだけは村長として頑張って、調整をしていただくように、天気予報など確認しながらやっていただきたいと思います。

ぜひ、これはお願いしておきます。

以上で2つ目の質問を終わります。

○議長（武石善治） 4番、佐藤君。

○4番（佐藤真二） 最後になりますが、村の活性化についてお伺いします。

平成の大合併において、上小阿仁村は単独立村を選択しました。その判断は、私も個人的には良かったのではないかと思います。合併しても単独村でも、どちらでも大変だと思いますが、単独のおかげで、村民には細かいサービスができますし、村民の声がダイレクトで行政に反映されます。

現在、村の人口は2,700人程度です。毎年、50人～60人の村民が減っております。上小阿仁村を村として存続させるためには、なんとしても村に若者を定住させなければ、いずれ、村はなくなります。若者を呼び込むためには、まず働く場がなければなりません。

村で1人暮らしをしている方の中にも、仕事さえあれば子どもは帰ってきたいと言っているのだがな、という声を聞きます。村からは、ここ数年の間に、景気の悪さ、働き手の減少から工場がどんどん減ってきているのが現状です。中田村長が村の首長になり2年近くなりますが、雇用の場を確保しようとした動きが大きくあったのは、最初のころの廃棄物処理の会社だけであります。あとは、緊急雇用対策、しかし、これは臨時で期間も決まっております。先ほどセンバのパートの話もありましたが、こういう臨時対策、パートでは、村民、若者が定着できません。誰が考えてもわかることであります。若者がいなければ、当然、子どもも生まれません。村を支える若い人がいなければ、当然、村はやっていけなくなります。

大きな都市と違い、村には誘致企業はなかなか来るとは思えません。しかし、だからといって働く場所を確保しなければならないのは、村長も判っていると思います。そこで、村として、雇用の場の確保として何か対策は考えているのでしょうか。村長の考えをお聞かせください。これが1つです。

それともう1つは、現代は、どうしても若い夫婦は、若いうちは自分達だけで生活したいと思うのが現状です。仮に仕事がある村の中にあっても、住むところがなければ外から通うことになり、村には定着できません。現在、村の住宅は満杯状態ですが、何か生活できる場として提供できるような政策を考えているのでしょうか。私がここで生活できる場というのは、必ずしも、その村の村営住宅などという意味ではなくて、若い方々が、もし村に帰ってきたとき、村が斡旋できるような空き家もあるのではないかという考えから、この生活できる場としております。

この2点、村長の考えをお聞かせください。

○議長（武石善治） はい、村長。

(中田吉穂村長 登壇)

○村長(中田吉穂) 働く場の確保として、村では何かを考えているのか、それから、そういう若い人が帰ってきたときに、住む家など、そういったものも、構想の中にあるのか、というふうなご質問であると思います。

村の働く場所の確保としては、誘致企業により新たな職場が出来ることが最も効果的であるということはいうまでもありません。しかし、先ほど、萩野の議員にも答弁したように、現在の日本の経済状況、村の工業団地がない実態の中で困難な課題でもあります。

平成25年度予算で、先ほど答弁いたしました個人事業主等への補助制度を創設し、商品開発、販路拡大等を支援してまいりたいと思っております。

住宅対策についてのご質問であります。村の住宅事情は、村内に多くの空き家が存在しており、その一因の一端は核家族化でもあります。実家がありながら住宅に暮らすことは、独居老人世帯の対策も行政が取り組む必要になってまいります。2世代、3世代と一緒に暮らしていくことにより、多くのメリットが生まれると思われませんが、どうでしょう。

近年、住宅費の未納も村にとって大きな問題となってきており、安易に住宅建設に取り掛かれないのが実情でもあります。アパートなどのない我が村にあって、住宅がなく住めないために、若者がいなくなるのようですが、よそからの移住人口がどのくらいあるのか調査が必要と考えます。

新築住宅あるいは中古住宅、それと安価な土地の提供など、いろいろな方法があると思いますので、今後の課題として検討してまいりたいと思っております。

集落の会長からは、空き家の活用や高齢者の独居世帯対策など、何らかの施設が必要ではとのご意見も伺っており、動向を見ながら村外からの独身者、高齢者の1人暮らしの方等を対象にした集合住宅等、意見の集約をしてまいりたいなと思っております。

本当に働く場があれば、村もそんなに心配をしなくていいわけですが、工業団地も、村の場合はありません。そしてまた、今まで村の中にありました誘致企業もほぼ撤退し、現在では、日本機械の三意工業というところだけになっており、大変働く場が不足しているということは認識をしております。しかし、相手があることでありますので、いくら、こちらが困っていても、相手が困らなければ、こちらに来るといえることはないわけでありまして。エンジンを大きくぶら下げれば、企業がくるという時代は、私は、終わったなど、こう思っております。そういうものではなくて、今、全国で企業が増えている地域があるわけですね。これはどういう地域かと言いますと、空いている、例えばお店屋さんがあれば、その地域にパン屋さんがなければ、パン屋さんを募集すると。誰でもいいのではなく、逆にこちらから、この地域にパン屋さんをやる人おま

せんかということで空き家を提供すると。それから今はネット社会でありますので、コンピュータ関係のデザイナーとか、そういった方々は、田舎に来て、そして田舎の中に居て、暮らしながら、そういう仕事をされているという地域もごぞいます。ですから、工場だけが必要なわけではなくて、我々は、そういう特色ある方々の移住も考えていけばいいのではないのかなと思っております。そのため、いろんな面で元気を出す施策をやっていききたいなと思っておりますので、答えになるかならないか、わかりませんが、今のところ、そういった状況でありますので、ご理解をお願いいたします。

○議長（武石善治） 4番、佐藤君。

○4番（佐藤真二） ご答弁、ありがとうございました。

村長が言うように大変難しい問題とはわかっておりますが、村長があきらめれば、村はどんどん衰退化いたしますので、ぜひ、先ほど萩野議員が言っていましたように、馬力のある村長でいてほしいと思いますので、ぜひ、1人でも多く上小阿仁村に、村民なり、また外からでも人が定着するように頑張りたいと思います。

これで私の質問を終わります。

○議長（武石善治） これで一般質問を終わります。